内製開発組織における生成AIとQAの関わり方

東急株式会社
URBAN HACKS
阿部　将太郎

URBAN HACKS
TOKYU CORPORATION

はじめに

「ソフトウェアテストと生成AI」の枠から少し広げて

「URBAN HACKSの中で、どのように生成AIを取り入れているか」

「内製開発組織として生成AIと向き合うこと」を軸に

お話できればと思います。

今日のテーマ

URBAN HACKS
TOKYU CORPORATION

■URBAN HACKSの生成AI利活用

■URBAN HACKSのプロダクト開発のなかで
生成AIがどのように使われているか

■移動・交通領域プロダクト、
エンタメ領域のQAでの取り組み

自己紹介

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■岩手県出身

■経歴

- ➢2016年 新卒でソフトウェア第三者検証会社に入社
- ➢2023年 東急株式会社に入社
  - ✓URBAN HACKSにて、移動・交通領域および エンタメ領域の新規案件のQAを担当

自己紹介

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■所属コミュニティ

- JaSST Tohoku
- 盛岡ソフトウェアテスト勉強会

担当プロダクト/ 東急線アプリ

URBAN HACKS
TOKYU CORPORATION

電車もバスも
リアルタイムな
運行状況がわかる

電車の遅延や混雑度、バス到着予測まで、
あなたの移動をスマートに。

担当プロダクト/ Q SKIP

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

Q SKIP

いつでもどこでも買える

駅の券売機に行かなくても、おうちやお出かけ先から、好きなときに購入できます。

スマートフォンが乗車券に

QRコードをかざすだけで改札を通過できます。

お得な特典がセットになったチケットも

施設入場券や食事券がセットになったQ SKIP限定チケットも販売中です。

東急について
URBAN HACKSについて

東急について

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■何をやってる会社・・？

- 「鉄道を軸にした街づくりをおこなっている会社」
  - ✓鉄道を敷いて、駅の周りに家を建て、百貨店やスーパーを作り、魅力的な街（文化）をつくる

東急について

URBAN HACKS
TOKYU CORPORATION

TOKYU HOTELS

URBAN HACKSについて

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■東急グループの内製開発組織

- ➢2021年7月に東急株式会社の中に立ち上げられた組織
- ➢外部のIT企業に頼りがちだったシステムの開発やデザインを内製化しよう、という目的

URBAN HACKSについて

URBAN HACKS
TOKYU CORPORATION

VISION

**東急グループの資産を技術で生かし、
より豊かな暮らしをつくる。**

MISSION

**東急のお客さまの1/10になる
プロダクトをつくる。**

世の中のユーザーは100以上のアプリをD/Lしている。
だが、毎日使うアプリは1日およそ10だ。生活の糧となり、日々使われるプロダクトの開発を行う。そしてユーザーと共に日々成長させて、豊かな暮らしを作り続ける。
お気に入りのアクセサリー、靴、かばんなどを超える存在を。
ユーザーにとってスマートフォンと同じ存在になる。

URBAN HACKSについて

URBAN HACKS
TOKYU CORPORATION

Way
チームの価値観

One Team, No border
職種や思考の「ボーダー」を取り払い、全員でゴールを目指す。

Outputではなく、Outcome
何をやったか？ではなく、何を生み出したか。

素早く失敗、素早く改善
失敗を恐れて完璧を追求するのではなく、大胆に挑戦し、爆速で学習する。

高い技術力
それぞれの分野で高い技術力と熱意を持ち、前人未到の挑戦を成功に導く。

正直でオープンなコミュニケーション
すべての活動において透明性高くあること。

東急と生成AI

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■職種問わず、組織全体で取り入れ

- ➢Copilot Chat
  - ✓エンジニア以外の職種でも広く使ってもらう
  - ✓事業部門での活用

東急と生成AI

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■非エンジニア職種でも生成AIを使える環境づくり

- ➢e-Learningで生成AI使用に関する教育を行う
- ➢社内ポータルサイトでプロンプトの共有
  - ✓日々の業務で少しずつ使ってもらう
  - ✓「アカウントを渡しっぱなし」の状態をなくす

URBAN HACKSの
開発と生成AI

URBAN HACKSの開発と生成AI

URBAN HACKS
TOKYU CORPORATION

■生成AI活用のスタンス

- **「価値発揮の再定義」**
  - ✓AIができることを任せて、できないことにどう価値発揮をしていくか
  - ✓AIを使うことはあくまでも手段
  - ✓AIを使ってどのように生産性を向上させるか、どう品質を向上するか

URBAN HACKSの開発と生成AI

URBAN HACKS
TOKYU CORPORATION

■内製開発組織として、なぜ生成AIを取り入れるのか

- ➢デリバリーの速度を上げる
  - ✓ユーザーにいかに早くサービスを提供するか
  - ✓単純に早く作る、ではなく、
    “人が考えるべきことに時間を使う”

URBAN HACKSの開発と生成AI

■URBAN HACKSのエンジニア・デザイナー

- ➢AIを活用して仕事に対して行動変容を行い、何に価値発揮をしていくかを取り組むフェーズ

URBAN HACKSの開発と生成AI

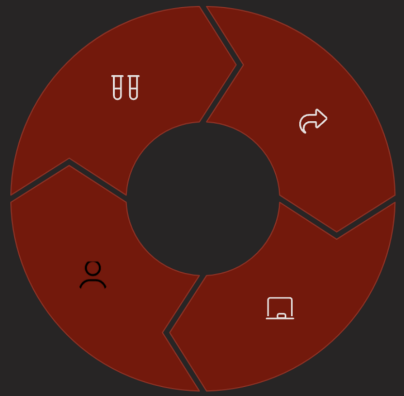
URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■活用するために・・・

- ➢組織としてツール使用をバックアップ
  - ✓予算
  - ✓ガイドライン整備

URBAN HACKSの開発と生成AI

ナレッジシェアの推進



AIの実験

様々なAIツールや手法を試してみる

知見の共有

得られた気づきや学びを組織内で共有する

改善と発展

学びを活かして新たな実験や改善を行う

組織学習

共有された知識から組織全体が学び成長する

AIの利活用に関しては今年の非常に重要なテーマとして、各人がトライしたことに対してのシェアを行い、それぞれが挑戦したことに対しての気づきを学びとして成長し、組織としてのナレッジを蓄積していく。そのために組織としてもツールの使用や調査などに全力でサポートする。それを推進するチームとして、今までのスキルシェア委員会をナレッジシェア委員会という形に変更し取り組みを加速させる。

Made with Gamma

URBAN HACKSの開発と生成AI

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■職種

- ➢PO/PdM
- ➢エンジニア
- ➢デザイナー
- ➢AM(Account Manager)
- ➢DA(Digital Accelerator)

URBAN HACKSの開発と生成AI

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■何を使っているか

- ➢OpenAI
  - ✓全員向けの共通基盤として広く活用
- ➢Claude
  - ✓Claude Codeを中心にエンジニアへ厚く配布
- ➢Gemini／Google系
  - ✓PdM・AM・DAなどを中心に展開

URBAN HACKSの開発と生成AI

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■特定の1ツールに依存しない

➢組織として複数の生成AIを使いこなせる状態をつくる

■変化に応じてすぐ切り替えられる柔軟性を持つ

■単なるツール導入ではなく、全社的な生産性向上と職種別最適化を進める

➢将来の変化にも対応できる組織能力をつくる

URBAN HACKSの開発と生成AI

URBAN HACKS
TOKYU CORPORATION

■「AIトライアル制度」

- ➢URBAN HACKS独自の取り組み
- ➢列挙したツール以外にも使用したいツールがあれば
  この制度を用いて効果検証を行うことができる
- ➢ツールを使用するための予算計上

URBAN HACKSの開発と生成AI

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■課題

- ➢まだまだ個人に依存している
  - ✓フラット組織なので致し方ない面も
- ➢積極的に発信・共有しよう
  - ✓UH Weekly Sync / Monthly ALL-Handsの「今月のイイ話」パートで共有したり
  - ✓チーム間・職能間で気軽に話したり

移動・交通領域
エンタメ領域での
生成AIの活用

移動・交通領域での取り組み

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■開発

- ➢主にアプリ開発、バックエンド開発で取り入れ

移動・交通領域での取り組み

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■仕様理解

➢仕様理解のアシストをNotebook LLMで実施

■GTFS (General Transit Feed Specification)

➢世界の公共交通機関で利用されている
時刻表や地理情報の国際標準データフォーマット

➢概要をまとめる

✓一問一答形式で知識の定着を図る取り組み

移動・交通領域での取り組み

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■QAでは・・・

- ➢開発速度が上がる
  - ✓デリバリーの速度が上がる
    - Q SKIPリリース回数：84回(FY2025)
    - 東急線アプリリリース回数：121回(FY2025)

移動・交通領域での取り組み

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■「QAがボトルネックにならないために」
テストプロセスに生成AIを組み込む

■思考していた部分をAIに切り出す

➢テスト設計工数を従来の1/5程度に圧縮

■他のことに取り組むリソースを増やす

➢フィールドテスト

✓実際の体験はAIには代替できない

移動・交通領域での取り組み

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■課題感

➢テスト観点生成をAI「だけ」に任せるリスク

✓テストのゴールを定めることでブレをなくす

✓現場で起きていること、運用は都度インプット

✓成果物に責任を持つ意識づけ

移動・交通領域での取り組み

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■アウトプットの品質に対して

- ➢「それっぽいもの」はできてくる
  - ✓「本当にそれって正しいの？」という考えを持ち続けなければならない
  - ✓人間のレビューを細かく入れる
- ➢人間がさらに深くテストプロセスを理解する必要

■知見がたまってきたので、レビュー用のエージェントを鋭意作成中・・・

移動・交通領域での取り組み

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■よかった話

- ➢「QAが最後にテストを頑張る」モデルを脱却
  - ✓中間成果物を生成→小さくレビューする流れ
  - ✓開発メンバーに実装段階でテスト観点を共有
- ➢案件が並行していてもタスクがスタックしなくなった
- ➢職能の垣根がなくなった
  - ✓東急線アプリで「案件オーナー制」を開始

移動・交通領域での取り組み

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■嬉しかった話

- ➢協業している東急電鉄のメンバーへの共有
  - ✓テスト設計をするエージェントの活用について共有したところ、ちょうどエージェントの活用で困っていた

エンタメ領域での取り組み

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■ウォーターフォール開発

- ➢QAが要件定義の段階からリスクの洗い出しを行う
  - ✓実装段階、UATで不具合を拾う
  - ✓仕様考慮漏れを拾う

まとめ

まとめ

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■内製開発組織のQAとして

➢デリバリーの速度を上げるための取り組み

✓従来、思考に時間をかけていた部分を生成AIに任せる

✓小さく継続しています

まとめ

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■「小さく始めて続ける」こと

➢試行錯誤する日々です・・

✓個人で色々使ってみる、試してみる

✓うまくいったら共有する

✓地道な積み重ね

まとめ

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■実感として・・・

- ➢複数の案件にアサインされていても過負荷になることはない
  - ✓「全て任せる」のではなく、「部分的に活用する」ことで工数を圧縮できている
- ➢これまでの作業で思考していた部分を生成AIに任せることで、他の部分に注力できるようになった

まとめ

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■いちエンジニアとしての雑感

- ➢組織全体で生成AI利活用を理解すること
  - ✓予算、ガイドライン、整備は大変ですが・・・
- ➢会社・部門・チーム単位で理解を深める
  - ✓「どこに使えそうだよね」「小さく使えそうだね」から始める

まとめ

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■生成AI活用は、“小さく安全に”始められる

- ➢「大きく始める」必要はない
  - ✓全社導入しなくても
  - ✓最初から業務を変えなくても
  - ✓成果を出そうとしすぎなくても
  - ✓まずは、「いつもの作業の一部」を「安全な範囲で」置き換えてみる

まとめ

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■例えば・・・

- ➢仕様の要約
- ➢議事録の整理
- ➢テスト観点のたたき台作成
- ➢レビュー観点の洗い出し

■使ってよい情報／入れてはいけない情報を決める

まとめ

URBAN HACKS TOKYU CORPORATION

■「AIを使えばなんでもできる！」ではなく
人が考えるべきこと、価値を出すことに集中するために
いつもの作業の一部を安全に置き換えていく

東急グループの資産を技術で生かし
より豊かな暮らしをつくる

URBAN HACKS

TOKYU CORPORATION